



日本遺産
JAPAN HERITAGE
京都物語

由木中央小



令和7年8月27日
学校だより 第6号
八王子市立由木中央小学校

教育目標 「すすんで学習をしよう」 「あったかい心をもとう」 「じょうぶな体をつくろう」

HP アドレス <https://hachioji-school.ed.jp/yugce/>

校長 松山 大作

秘めたる力を引き出す

校長 松山 大作

「童話集」で世界中の子どもたちに親しまれているハンス・C・アンデルセン。彼は、詩才豊かな父と、優しい愛情に満ちた母のもとで才能の芽を伸ばしていきました。

アンデルセンは、物心つく頃から文章を書くことが好きでした。11歳の時、古い詩をもとにして戯曲を書き上げました。嬉しさのあまり、それを誰かれなく読んで聞かせました。しかし、まともに取り合う者はなく、皆に笑われてしまうだけでした。最後に見せた隣りのおかみさんには、さんざん馬鹿にされたあげく、「私は忙しいんだ。そんな下手なものを聞いている暇はないよ。」と追い返される始末でした。目に涙を浮かべて家に戻った彼を、母は美しく咲きそろった花壇へ呼び寄せ、こう語りました。

「どの花もみんな綺麗に咲き誇っている。けれどもハンス、やっと土から顔を出した双葉をよくごらん。お前もこの二枚の葉と同じように、今は人を楽しませることはできないけれど、やがて立派に花を咲かせ、人々を喜ばせる時が来るのです。さあ、元気を出しなさい、ハンス！」と。

後年、本格的な文筆生活に入った彼は、ことあるごとにこの日の母の言葉を思い起こし、自らを勇気付けたと伝えられています。たとえ誰に見放されようとも、我が子の伸びゆく芽をひたすら信じ、最後の砦となり励まし続ける親の心情に強く心を打たれました。

「子どもへの愛情とは、太陽のごとくあるべきである。」と聞いたことがあります。太陽の運行は不変です。不変であるからこそ、万物は成長します。もし、太陽が自分の都合で気ままな運行を始めたらどうなるでしょうか。たちまち自然のリズムは崩れ、生あるものは生きる力を失っていくことでしょう。同様に、何があっても自分を信じ、愛情を注いでくれる大人の存在ほど、子どもにとって重要なものはないと思うのです。

日々の教育活動の中で子どもたちと接していると、どの子にも素晴らしい力が秘められていることを感じます。想像力が旺盛でアイデア豊富な子。自然への豊かな感受性を備えた子。相手の気持ちを鋭く見抜く子。自らの決めた道をひたすら努力できる芯の強い子。友達への親切を惜しみなくする優しい子……。子どもの中に立派な大人がいて、尊敬の念さえ抱く場面がたくさんあります。中にはまだ、「自分に自信がもてない」という子がいます。しかし、それはまだ双葉の時期だからであって、将来、立派に花を咲かせるに違いありません。その成長を信じる愛情の深さの分だけ、子どもは可能性の根を張り広げていくと信じています。

子どもを信じる大人は、大人を信じる子どもを育てていきます。そして、大人を信じる子どもは立派に成長していくものです。この信じ合える関係こそが、子どもたちの秘めたる力を大きく開花させていくと思うのです。

信じ合える「家庭」、安心できる「学校」、信頼できる「地域」を土台にして、子どもたちの秘めたる力を大切に育てていく2学期にして参ります。引き続き、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

